

## 平成18年4月経営協議会議事録

I. 日 時 平成18年4月25日(火) 15時00分～17時05分

II. 場 所 千葉大学けやき会館レセプションホール

III. 出席者 古在学長, 伊集院, 清水, 後藤, 赤田, 石橋, 山根, 天野, 宮崎, 安田,  
藤澤(武), 山口, 石垣, 藤澤(英) 各委員  
(欠席: 岡田, 早川, 有馬, 井上, 松本, 堀, 各委員)

議事に先立ち, 学長から挨拶が述べられ, 続いて, 新委員となられた清水新次,  
後藤卓也, 赤田靖英の各委員の紹介と学内委員の安田浩委員の紹介が行われた。

IV. 前回経営協議会議事録について  
原案のとおり承認された。

V. 審議事項 1.

平成18年度学内予算配分(案)について

学長から平成18年度学内配分予算(案)について審議願いたい旨提案があ  
った後, 山根理事から資料に基づき説明があり, 意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり

- ・予算配分においてプロジェクト経費が昨年度に比べ減額となっているが,  
重要な予算ではないのか。
- ・運営費交付金が減額となる一方人件費が地域手当の増等により増額となる  
という大変厳しい財政状況ではあるが, 当面の教育研究経費の配分を昨年  
と同額としたため, その分学長裁量経費及びプロジェクト経費を減額する  
こととなった。
- ・プロジェクトは担当理事を決め, 原則として公募により決定する。
- ・予備費及び附属病院の増収については, 繰り越しが出来るようになったの  
か。
- ・文部科学省の承認を受ければ, 繰り越しが出来るようになっている。また, 本  
年度は, 昨年と比べ承認も早くなると思われる。
- ・経費節減の中で, 毎年多くの教職員を削減しなければいけないようだが,  
いつまで続くのか。
- ・今後5年間で人件費を5%削減する必要があるが, その後も独立行政法人  
の状況をみると厳しいものとなることが予想される。

2. その他

(1) 学長選考会議委員の選出について

学長から国立大学法人千葉大学経営協議会規程第2条第1項第4号委員（学外有識者）の中から学長選考会議委員を選出することについて諮りたい旨提案があった後、山根理事から7名選出について説明があり、7名の委員候補として、早川、伊集院、有馬、清水、赤田、松本、石橋の各委員が提案され、審議の結果、提案どおり上記7名が選出された。

## VI. 報告事項

### 1.

#### 産学連携・知的財産機構の状況について

伊藤副機構長から産学連携・知的財産機構の概要、インキュベーション施設及び産学連携の状況について報告があった。

主な報告内容及び意見は次のとおり

- ・企業との関係で力が入りすぎると目先の資金調達に躍起になってしまう。産官学の連携においては、基礎研究とのバランスが重要である。
- ・インセンティブが重要である。
- ・基礎研究、学術レベルの向上には、研究費の充実が不可欠であり、TLOがインセンティブになり基礎研究と相乗効果が上がれば好循環となる。
- ・発明（特許）に対して、対価の配分が重要である。
- ・知的財産活用チームとはどのようなものか。
- ・主に大学内のシーズの発掘に、アドバイザー及びマネージャーがあたる。
- ・特許化したものをどのように発信するのか。
- ・データベースを作成中であり、また、シーズ集の作成も考えている。

### 2. その他

#### (1) 国立大学法人千葉大学運営組織について

安田理事から平成18年度に新たに設置した機構及び企画室等について資料に基づき説明があった。

## VII. その他（自由討論） 1.

#### 千葉大学が進むべき道

学長から自由討論として、先に配布した資料を参考に自由討論を行いたい旨発言あり、討論が行われた。

主な意見は次のとおり

- ・大学院入学式学長告辞に述べられている、モード1、モード2に加えCモード（千葉大学モード）があつてよいのではないかと。
- ・今の教育は企業の夢に合致しておらず、また、自分探しをする教育でない。自分を試す教育を教えて頂きたい。
- ・信念を強く持っている学生をどのように支援するのか。
- ・在学中に一人で行動できるような支援をしたいが、方法が重要である。
- ・定年を迎えつつある団塊の世代は生涯学習の意欲を強く持っているが、その意欲を活かす方法はないか。有料の講義でも参加するぐらいであり、新

しい方向を出せると思う。

- 生涯学習への取り組みは大学でも重要な課題である。本学では、「けやき倶楽部」という生涯学習サークルがあり、熱心に活動している。
- 学生は責任と義務の重さに負けて、ボランティアに行く傾向がある。
- 学生は準備されたものに行く傾向があり、自らの意志で動くことはない。甘えが多い。
- ボランティア活動で中心となる人は意欲ある人が多い。サークルで自分の思いが達成できない人達が、ボランティアに進む傾向が見られる。
- ビジネスでの「感謝のリサイクル方程式」を産官学においても方程式を作るべきではないか。徳が循環するものを作るべきだ。
- 千葉大学は地味なイメージがある。目立つものがない。
- 優秀な教授等の売り込みをし、千葉大学独自のものを持つべきではないか。
- 千葉大学はどのような軸を持てばよいのか。
- 格のある大学にしていきたい。近づけない、また、近づきがたくない大学を目指す必要はない。

以 上